

## 大阪の高校生がキャリア教育による 成長・変化をプレゼン

# じぶん未来発表会 レポート

小社はキャリア教育によって、何を学び、将来に対する考え方にどんな変化があったかを高校生1年生がプレゼンする「じぶん未来発表会」と題した会を、2011年12月17日に開催しました。大阪府内にある16校の代表者が多彩で個性豊かな発表を行い、互いにコミュニケーション力や社会への発信力を高め合う機会となったようです。生徒たちの発表内容や講評者の先生方のコメントをレポートします。

取材・文／太田知子

### キャリア教育で自分に起きた 「変化」をプレゼン

2011年12月17日、大阪府の後援を受けて、リクルート主催の「じぶん未来発表会」が開催された。16校の代表者が学校で経験したキャリア教育を通じて、どんなことに気づきどんな変化があったかについて、1校5分の持ち時間でプレゼンテーション。発表し合うことで、キャリアへの意識をさらに高め、主体性やコミュニケーション力を高めるものねらいのひとつだ。

16校のプレゼンを講評し、「話し方賞」「印象に残った賞」「元気があった賞」「ストーリー賞」の4賞を選考した審査員は4人。大学からは佛教大学教育学部部長の原清治先生と京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上慎一先生、企業からはパナソニックで社会文化グループ戦略推進室の室長を務める横川巨さん、そして司会で落語家の月亭八光さん、という顔ぶれがそろった。

生徒や引率の先生方には、他校の発表に注意深く耳を傾け、励まし刺激し合うことで、もろたために「感想カード」が配られた。

### インターシッピングや取材など 多彩な体験に聞く側も集中

発表は実体験にもとづくものから探究的な学習まで多彩で、各校がそれぞれの課題に応じ、工夫を凝らした実践を行っていることがわかるものだった。なかでもユニ-

### 府立／松原高校の発表

#### 卒業生を招いた講演会で語られる様々な言葉から、働くことの意味を感じています

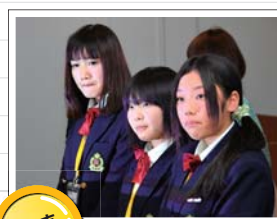
学校で行われている進路学習の中でも、7人の若い先輩を招いて仕事の内容ややりがい聞いた「ようこそ先輩」では、多くの発見がありました。「私の発見は、就職がゴールではないということ。働き始めたらずっと働き、働きながら新しい夢や目標をみつけ続けなければならないことに気づきました」(小林さん)。「私は夢をあきらめてはダメだと痛感しました。またピースポードで働く先輩から世界の貧困についての話を聞き、人のために役に立ちたいと思いました」(久保井さん)。「私は難聴の子どもを保育する保育士の先輩から、初めて手話でその子と意思疎通できたときの喜びを聞き、人と人が思いを合い合わせることの大切さを知りました」(福岡さん)。それぞれの思いを胸に、夢を追い続けたいと思っています。

#### 進路学習の内容

総合学科高校。耳を傾け(話)、ルールを守り(和)、参加する(輪)という3つの「ワ」を身につけ、3年間で信頼される人になることを目指す。2学年からは自分で時間割を作るため、1学年では『じぶん未来BOOK』を使った学習、「ようこそ先輩」など、将来を考えるヒントとなるさまざまな進路学習に取り組む。

#### 講評

心動かされる感動的なプレゼンでした。コンセプトがしっかりした学校で、それをものにしようとする生徒がいることがわかりました(横川さん)。



クな4校をの3コラムで紹介している。ぜひ、詳細をご覧ください。  
体験的な学びにもとづく発表をいくつか紹介しよう。府立池田北高校は、実習先、実習日数を自分で決められ、単位認定もされる同校独自のインターシッピング制度をもっている。発表者の水合君は幼稚園での実習を経験。仕事の忙しさと難しさを実感する一方、幼稚園の先生を目指す気持ちが強まったという。また、大阪市立東商業高校は企業と連携した商品企画などに1年生全員が参加する「1プロジェクト」の概要を紹介。生徒からは「インターシッピングをやってみたい」など、他者の体験に興味を示し、自分もやってみたいといった感想がカードで寄せられた。

学ぶことの意味や進路について考えを深

める経験をした生徒の発表もあった。私立東大阪大学柏原高校の石井君は、スウェーデンで開かれたボイスアウト大会に参加した経歴を発表。世界各国の人と話して英語の重要性を強く感じ、英検2級を取得し、外国語大学に進学したいという目標ができたという。

私立相愛高校では、競争ではなく協調によって社会で役立つことと、女性の幸福という視点からキャリアを考える授業を行った。生徒たちは、多くの人に必要とされるジェネラリストをめざしたいと結論。一番身近な存在である「お母さん」も、さまざまな学問に精通するジェネラリストの側面があることを発見した。

警察官を志望する生徒が、職業調べの授業でまとめた内容を発表した府立伯太高

## 府立／大阪府教育センター附属高校の発表

### コミュニケーションへの苦手意識を克服するきっかけになった「探究ナビ」

私の学校では「探究ナビ」という授業があります。そこでの経験から気づいたことを発表します。1つめは、自分の気持ちは自分で伝えないとわかってもらえないということ。先日、思い切って「テストでいい点が取れるか不安なんだ」と友達に伝えてみました。本音をなかなか言えない私にしては大きな変化でした。2つめはあきらめなければどんな目標にもたどりつけるということ。商品開発の授業でアイデアをまとめるとき、本当にできるのか不安になりました。でもなんとか目標を達成できたとき、このことを実感しました。3つめはどんどん挑戦していかないと成るものにも成れないということです。「探究ナビ」の大きなテーマがコミュニケーション力を育てるということ。正直私は苦手なのですが、あきらめず、足を止めず、一歩ずつ進もうと思います。

#### 進路学習の内容

2011年4月、日本で初めての教育センター附属高校として開校した同校。3年間を通して週3時間行われる「探究ナビ」では、聴く、質問する、説明する、協同するの4つの力とコミュニケーション力を養うため、職業調べ、商品開発、演劇などの総合学習に取り組む。

#### 講評

苦手意識を克服しようとした場に来たことがすばらしい。また彼女は原稿を読み上げるのではなく、準備した内容について考え直しながら話していました。それがすごい力だと思います(溝上先生)。



印象に残った賞

校「適職・適学診断テスト」(R・C・A・P)の結果をもとに行った、自己分析や将来設計について発表した箕面学園高校など、ひとつとして同じ内容のない発表からはキャリア教育の実践の広がりを感じさせた。

**二人でのかけあい、最後に夢宣言などプレゼン方法も個性派ぞろい**

発表の仕方にもさまざまな個性があった。「感想カード」に書かれた評価をみると、聞くことも良い発表とは何かを考える機会となったようだ。

市立生野工業高校は、夏季進路セミナーで、マインドマップという思考整理のための手法を使って、頭の中に眠っている情報を引き出し、将来の考えを整理するのに役立

てたという。トップバッターの重圧をはねのけたハツツとした発表に「元気でわかりやすかった」と多くの生徒が好印象をもった。

市立鶴見商業高校は、発表者の二人が将来について語り合う場面を演じるという斬新なスタイル。「ぼんやりと未来を探り始める高校生の様子はあのようなものだった」と、「こんな風に普段から夢を語り合える友人関係はとても大切だと思った」と先生方にも発見があったようだ。

府立金剛高校は職業人インタビューで消防士に話を聞いた西仲君が発表した。途中に消防士の仕事に関するクイズがあり、「突然の出題はともおもしろかった」という生徒の声があった。府立大手前高校は大学生や社会人の講義、大学での体験学習などを受講する集中セミナーから得たこ

## 府立／北摂つばさ高校の発表

### 震災ボランティアで地元の高校生と交流。できることをやることで世界が広がると実感

東日本大震災が起こり、自分たちにできることはないかと思っていた矢先、先生が宮城県気仙沼市でのボランティア活動を企画してくれたので、思い切って参加しました。現地に行く前に大阪で募金活動をしたのですが、お金を入れてくれるか、無視されるかもしれないと心配でした。でも道行く人に励まされてだいに大きな声で呼びかけられるようになりました。現地でも取り組んだ公園のヘド口掃除は魚も埋まっていた臭かったし、終わったときは腰や足が疲れ切っていました。近所の人に感謝の言葉をかけてもらって癒されました。ボランティア活動をしてから、節電・節水を心がけ、食事も残さなくなりました。家族とけんかもなくなりました。今も続く気仙沼高校との交流は財産です。勇気を出してやってみて、良かったと思います。

#### 進路学習の内容

先生が企画した震災ボランティアに希望する生徒が参加。事前に大阪で義捐金を集めて現地入り。公園のヘド口掃除などに取り組み、気仙沼高校に募金で集めた16万円を寄付。その後も気仙沼高校の生徒を大阪に招くなど、交流が続いている。

#### 講評

リアルな経験からくる気づきは、キャリアを考えるきっかけになります。大震災という未曾有の事態に対し、自分たちにできることは何かを考え、行動できたのはすばらしいことです(原先生)。



とを発表した。パワーポイントなしで言葉だけで伝えたいことに対して、「大事なところは大声で、抑揚をつけて話すのがすごい」と刺激を受けた生徒も。私立清明学院高校は職業調べでJR西日本の職員にインタビューした様子を再現。生徒は「会話の再現がおもしろかった」とひきこまれた様子。

発表を聞くことで、他者の経験を追体験し新たな気づきを得た生徒、他校の実践からヒントを得た先生方も多かったようだ。

私立初芝立命館高校は総合的な学習の時間に行われる「地球市民科」の授業について発表した。高大連携では立命館大学や立命館アジア太平洋大学の先生から授業を受ける意味、働く意味などについて話を聞き、企業連携では飲料メーカーの商品販売戦略を考えたりした。最後に発表者全員

が、自分の将来の夢を宣言した。他校の先生からは「地球市民科の概要と何を学んだかがよくまとまっていた」などの声があった。

**学ぶことの大切さを自覚し夢に向けて行動を、と呼びかけ**

次に審査員の先生方を中心に、「学ぶことをテーマにトークセッションが行われた。溝上先生は「○○になりたい」と表明することには、そのとおりの未来を引き寄せる力があるといわれています。ただし夢や目標があっても、それに向かって努力できる人は現実には2割程度です。どんな将来を目指すにしても、高校の勉強が基礎になることを肝に銘じ、決して勉強をおろそかにしないことが大事です」と語りかけた。



大阪市立生野工業高校。発言に合わせて画面を切り替えるサポート役の二人の息の合った動きにも練習の成果が感じられ、好評だった。



ストーリー賞

堂々とした態度に感心する声が多かった私立初芝立命館高校。充実した学習内容を等身大の言葉で伝える発表に評価が集まった。



大阪市立鶴見商業高校は、日常会話のように語り合う発表に注目が集まった。最後は二人の未来ビジョンが語られ、構成力も評価された。

## 私立／大阪聖母女学院高校の発表

### 仕事の多様さ、仕事を選ぶきっかけ、やりがいを知り、将来を考える指針ができた

私たちは『じぶん未来BOOK』を読んで、3つのことを発見しました。1つめは知識の大切さです。世の中にある仕事の種類は2万以上。多くの仕事を知るほど選択肢も広がるのだから、どんな仕事があるのかを調べることは大切だと思います。2つめは仕事に就ききっかけや動機です。『じぶん未来BOOK』に登場した50人を分類すると、好きだから、その職業にあこがれて、学生時代のきっかけがあって、社会人になってから転職が訪れて、という4つに分類できました。いつきっかけがあってもいいように、常にアンテナを張り続けることが大事だとわかりました。3つめは働くことの意味です。登場人物たちは、高い目標をもち、大変でも報われる瞬間が仕事に打ち込む原動力になっているとわかりました。今回気づいたことを念頭に進路を考えたいです。

#### 進路学習の内容

高1の6月、将来や職業選択についての講演をきく。さらに仕事のやりがいなどを語る50人の職業人が登場する『じぶん未来BOOK』を読み、働くとは何か、将来就きたい職業は何かなどについて考えた。

#### 講評

働くことの意味など、有意義な発見をされましたね。ただ職業選択においては、知識だけでなく知恵を身につけることも大事です。学校の勉強はもちろん、普段の生活でもきっかけをみつけられるよう、心がけてみてください(横川さん)。



横川さんは「企業で必要な3つの力は前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力です。勉強、遊び、行事、家族、すべてを大事にして力をつけてください」とメッセージを送った。

授賞式では4人の審査員から各賞が発表がされた。「話し方賞」は府立松原高校が受賞した。選考した月亭八光さんは「彼女たちには自分の思いや考えを言葉にする力がありました」とコメント。発表者の3人は「将来を一番考えるこの時期に、発表の機会があつて良かったです」と語った。「印象に残った賞」は大阪府教育センター附属高校が受賞した。原先生は「彼女の人が柄がにじみでいて、それが実に魅力的でし

た」と讚えた。「元氣だった賞」は市立生野工業高校。溝上先生は「元氣という点では文句なしでした。また高校生でもマインドマップをうまく使うことに感銘を受けました」と語った。「ストーリー賞」を受賞したのは私立初芝立命館高校。「起承転結の構成がきちんとあり、学んだ内容もバランスが取れていました」と横川さん。

今回参加した生徒は「緊張したけど、とても達成感があつた」「他校の良さ、未来の大切さがわかり、人間的に成長できた」といった感想を寄せている。引率の先生方からも「さまざまな視点があり、生徒の刺激になった」「やる気のきっかけをどう提供するかについて、たくさんヒントをもらった」と好評のうちに会は幕を閉じた。

## キャリア教育の専門家が考える会の意義

本会を終えるにあたり、キャリア教育の専門家である原先生と溝上先生は、そろって「このような機会が全国的に増えることを願う」と語った。同時に今後の方向性や課題についても鋭い指摘があった。



### 一方的に発表するだけでなく関係性の中で刺激し合う「つながり力」が育つことを期待

佛敎大学教育学部教授・  
教育学部長  
原 清治先生

高校生にとって、このような機会はとても貴重だと思います。時間をかけて準備する必要はありませんが、何を話すか生徒がひざ詰めで議論し、自分の言葉で考え、自分のアイデアで自分たちらしさを出して、完成度を上げていくことをもってできるようになってほしいと感じました。

教育学には「つながり力」という考えがあります。言いたいことを言い合うだけでは、つながっているようでつながっていません。ネットの掲示板がまさにそれで、ユーザーの人たちは平気で横入りして勝手に退場します。そうではなく、相手の意見を咀嚼してリプライしたり、関係性の中で考えを深め、行動する勇気ややる気をもらう、そういう「つながり力」の相乗効果が生まれる場になることを期待しています。今回プレゼンで宣言した将来の目標が、変わっていくことはまったく問題ありません。問題なのは将来についてまったく考えないで高校時代を過ごし、何をしたいかわからないまま卒業を迎えてしまうことです。早い段階で将来について考え、積極的に誰かに伝えることで自らの手で未来を切り拓く高校生が増えていくといいですね。

今後、同様の会が、全国各地で開かれると、高校生のキャリアへの意識もどんどん高まるのではないのでしょうか。私は、高校の先生に対するキャリア教育の研修にも携わっていますが、そんな機会を今後も積極的に設けたいと思いました。



### 職業ではなくカテゴリーで将来を考え社会性と将来設計をつなげることを意識

京都大学高等教育研究開発推進センター  
大学院教育学研究科  
溝上慎一先生

高校生が自分の受けたキャリア教育の内容とそれによって自分に起こった変化をプレゼンし合う機会は今までほとんどなかったと思います。今回のような取り組みが、どんどん広がってほしいと期待しています。ただ、プレゼンを聞いていて課題も見えたような気がします。例えば、将来について保育士、消防士、先生など、専門職に固定して考えている発表者が多かったこと。将来の夢は1つの職種に定めるより、子どもとかかわりたい、人の笑顔が見たいなど、カテゴリーで考えると柔軟になれるし、視野も広がると思います。職種を絞りすぎて就職活動がうまくいかないケースは、大学生でもよく見られます。

もうひとつ考えたのは、北摂つばさ高校の震災ボランティアについての発表の意義です。彼らの活動はキャリアデザインではないものの、社会性を育てるという点ですばらしいキャリア教育であることがはっきり伝わってきました。各自のキャリアデザインを振り下げる経験と社会性を身につける経験、その2つをどうつなげるのが今後の高校におけるキャリア教育の課題だと思いました。

また参加しただけでも意味があることは確かですが、この経験をどう生かすかも大事です。指導者の先生方には一つひとつの取り組みのつながり、構造を俯瞰して、事後指導も充実させていただきたいと感じているところです。

## 「じぶん未来発表会」開催概要

- 日時：2011年12月17日(土)12:30~17:00
- 審査員：原清治氏 / 佛敎大学教育学部教授・教育学部長、溝上慎一氏 / 京都大学高等教育研究開発推進センター(兼任)大学院教育学研究科・高等教育開発講座、横川亘氏 / パナソニック株式会社コーポレートコミュニケーション本部社会文化グループ戦略推進室長
- 場所：梅田スカイビルタワーウエスト36階
- 参加校一覧：大阪市立生野工業高校、府立池田北高校、私立大阪聖母女学院高校、大阪府教育センター附属高校、府立大手前高校、府立金剛高校、私立清明学院高校、私立相愛高校、大阪市立鶴見商業高校、府立伯太高校、私立初芝立命館高校、私立東大阪大学柏原高校、大阪市立東商業高校、府立北摂つばさ高校、府立松原高校、私立箕面学園高校(50音順)
- 主催：株式会社リクルート 後援：大阪府



司会・進行を務めたABC朝日放送アナウンサーの喜多ゆかりさんと、大阪を中心にTVでも活躍中の落語家・月亭八光さん。二人の軽妙なかけあいで、緊張気味の会場が笑いに包まれるシーンも多かった。